

第10回大阪・関西万博協賛競輪「全国都市緑化かわさきフェア開催～川崎市制100周年記念～」



10/11(金)12(土)13(日)14(月)



川崎スポーツ

レース展望

10月11日からの川崎競輪は大阪・関西万博協賛GⅢ。全国都市緑化かわさきフェア開催～川崎市制100周年記念～として、4日間S級選手による激しい戦いが行われる。

まず地元神奈川からは6月岸和田高松宮記念杯GI決勝2着となった和田真久留(99期)と9月青森記念を制した佐々木真也(117期)が登場。近況の和田は抜群のダッシュ力に加え、マーク戦でも好結果を残しておりオールラウンダーとしての活躍が期待され、佐々木の青森決勝は展開のエアとは言え、S級S班の眞杉匠や新山響平をまとめてバック捲りで仕留めた驚きのレースを見せ勢い十分。

関東勢では過去に3度のGⅢ優勝実績のある山岸佳太(茨城107期)、9月宇都宮共同通信社杯GⅡ決勝3着に食い込んだ恩田淳平(群馬100期)、未だ差脚・気力の衰えないベテラン諸橋愛(新潟79期)が参戦。好位キープから自在に攻める山岸の動きに乗って、恩田や諸橋が直線突っ込むシーンが目に見え。

今開催は中部ラインになかなかの自力型が揃った。まずは積極先行で末脚もかなり強靱な藤井侑吾(愛知115期)が川崎でも大暴れの予感があり、カマシ捲り鋭い松岡篤哉(岐阜97期)・山田諒(岐阜113期)やこれからの期待がかかる積極型・額嶺洸翔(愛知121期)と

いて、復調して来たマーカース口富生(岐阜68期)・坂口晃輔(三重95期)にとっては頼もしい存在になるだろう。

最後に西日本からは共同通信社杯と青森記念で4勝2着1回と成績急上昇中の大川龍二(広島91期)。自在に何でもこなすレーススタイルで、目標不在の戦いでも軽視は出来ない。強さともろさが同居する北津留翼(福岡90期)だが、その強烈な機動パワーは誰しもが認めるところ。決して目立つ存在ではないが安定感のある坂本健太郎(福岡86期)や2班ながらデビュー以来最高得点を挙げている山口敦也(佐賀113期)との好連係に期待。

地元勢主軸も実力差は無くV激戦

S級
主力選手



和田真久留 神奈川 99期

今開催の地元の主軸はもちろんこの人。層の厚い神奈川勢の中、多彩な役割で活躍している。もちろん自力も健在だが番手・三番手を回ってもきっちり仕事をこなして、そうそう前に離れないダッシュ力も魅力。地元勢にはいなくてはならない存在となりつつある。

S級
主力選手



佐々木真也 神奈川 117期

ホームバンク気合は十分に入っている。直前の青森でGⅢ初優勝を果たし、乗っている状態で挑む地元戦。否が応でも気持ちは入るはず。しかも眞杉匠や新山響平らが揃う中でのGⅢ初制覇で、どんな組み合わせでも強気な攻めが持ち味。一皮剥けた活躍に期待。

S級
主力選手



北津留翼 福岡 90期

もろさもあるが、一撃の魅力がある機動型。宇都宮で行われた共同通信社杯では、去年の競輪祭以来となるビックレースの優出を決めた。40歳を目前にするベテランだが、豪快なカマシやまくりはいまだファンを沸かせる。今開催の優勝候補の一角となるはず。



S級
注目選手

恩田淳平
群馬 100期

マーク型として献身的な仕事をこなし、コツコツと実績を積み重ね、9月の共同通信社杯でビックレース初優出、しかも3着に食い込み確定板に載る快挙を成し遂げた。持ち前の瞬発力を生かして、しっかり機動型を追走して援護する信頼度の高い選手だろう。



S級
注目選手

藤井侑吾
愛知 115期

養成所時代はゴールドデンキャップを獲得するなど、115期の逸材がようやく頭角を現してきた。今年1月にはS級初Vを決めて既にF1では3V。宇都宮の共同通信社杯では初の500バンクのビックレースで戸惑ったようだが、近況好調な様子が見え。

川崎競輪場バンクガイド (2023年10～12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立てていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル